

令和3年度 篠島小学校 学校評価アンケート（三者比較）結果と分析

◆（ ）内に4段階評価（4:とても 3:まあまあ 2:あまり 1:まったく）の平均値を記す。

$(4 \text{点} \times 4 \text{の人数} + 3 \text{点} \times 3 \text{の人数} + 2 \text{点} \times 2 \text{の人数} + 1 \text{点} \times 1 \text{の人数}) \div \text{総数}$

※ 数値は、令和元年度→（令和2年度）→令和3年度

1 学校教育目標は適切である。

(3) 保護者 3.32→(3.52)→3.48

2 学校は、学校教育目標（めざす児童生徒像）の達成に向けて、取り組んでいる。

(1) 学校 3.58→(3.58)→3.70

(2) 子ども 3.06→(3.31)→3.35

(3) 保護者 3.30→(3.46)→3.43

児童の評価が上がった。教員の自己満足とにならないよう、今一度、学校の姿勢や児童との関わり、個々の授業を見つめ直し、丁寧に取り組む必要がある。

3 学校は、教育活動の情報発信や問題の説明責任を果たしている。

(1) 学校 3.92→(3.67)→3.70

(2) 子ども 2.99→(3.40)→3.14

(3) 保護者 3.42→(3.61)→3.54

保護者・児童の評価が下がった。今後も継続して、学校便りや学級通信、ホームページ、さらにはメルマガで情報発信していくが、児童への配付時に、内容をかみくだいて伝えておく等、工夫が必要である。

4 学校は、学力向上に向けて、取り組んでいる。

(1) 学校 3.58→(3.50)→3.50

(2) 子ども 3.40→(3.63)→3.49

(3) 保護者 3.20→(3.17)→3.20

保護者からの評価が上がったものの、学校と保護者の評価に隔たりがある。担任の授業力向上や児童たちが家庭学習に進んで取り組むことができるように今後も努めたい。

5 学校は、思考力・判断力・表現力の育成にむけ、取り組んでいる。

(1) 学校 3.50→(3.42)→3.00

(2) 子ども 3.23→(3.43)→3.42

(3) 保護者 3.20→(3.30)→3.19

全体的に評価が下がった。学習の見直しをもたせ、発表の仕方や調べ方等、学び方の指導を工夫し、児童が学習の成果を十分に実感できるように努める必要がある。

6 学校は、豊かな心を育むため、取り組んでいる。

(1) 学校 3.67→(3.58)→3.44

(2) 子ども 3.19→(3.45)→3.32

(3) 保護者 3.21→(3.42)→3.32

全体的に評価が下がった。行事や日常生活など、様々な場面で制約があったが、体験的な活動を工夫して取り組み、思いやる心や感動する心を引き出せるようにしたい。

7 学校は、いじめや体罰の防止に、取り組んでいる。

(1) 学校 3.50→(3.58)→3.60

(2) 子ども 3.10→(3.33)→3.19

(3) 保護者 3.08→(3.31)→3.24

教員と児童・保護者の評価に隔たりがある。児童一人一人としっかりと向き合い、日常的な声かけや話を丁寧に聞くなど、情報交換を密にしたい。

8 学校は、体力向上にむけ、取り組んでいる。

(1) 学校 3.42→(3.25)→3.30

(2) 子ども 3.43→(3.70)→3.52

(3) 保護者 3.06→(3.24)→3.13

部活動・体育・大放課・行事など、活動に制約があるものの、工夫しながら運動する機会の充実を目指す。

9 学校は、健康や基本的な生活習慣の確立に向け、取り組んでいる。

(1) 学校 3.25→(3.50)→3.40

(2) 子ども 3.33→(3.45)→3.28

(3) 保護者 3.20→(3.37)→3.22

三者とも評価が下がった。学校での歯みがき中止・放課のマスク着用等の制約の中。保健便りや学校保健委員会等で、児童に自分の健康や生活習慣を意識させ、家庭との連携を図っていく。

10 学校は、防災教育や安全教育に、取り組んでいる。

(1) 学校 3.58→(3.75)→3.60

(2) 子ども 3.52→(3.58)→3.56

(3) 保護者 3.23→(3.36)→3.31

三者とも評価が下がった。「自分の身は自分で守る」という危機意識を常にもたせ、いつどのような場所でも安全のための適切な行動がとれるよう、避難訓練などの見直しを行っていく。

11 学校は、地域と協働し、信頼される学校づくりを進めている

(1) 学校 3.25→(3.83)→3.50

(2) 子ども 3.17→(3.61)→3.36

(3) 保護者 3.34→(3.49)→3.43

三者とも評価が下がった。今年度は、地域と積極的に関わる機会が少なかった。できる範囲で地域と連携した学校づくりを推進していく。

<寄せられたご意見・ご感想>

- ・ 低学年の子は、まだまだ車の危険性をわかっていないと感じるときがある。実際にトラックや車の運転席に乗せて、いかに小さな子どもが見えないか体験させる授業を行ってほしい。
- ・ 少ない先生方で、とても頑張ってくださいということがよく伝わってきます。学校よりも自宅での生活や家庭学習が大切だと感じています。先生方には、大変な思いやご迷惑をかけてしまっていると感じているので、ウミガメ隊に協力するなど、できる限り協力していきたいと思っています。
- ・ いつも個々に対する支援を有り難く感じています。島の子は言葉遣いが荒く、島外の方と話すのが苦手です。島を出てから恥ずかしい思いをしないよう、堂々と話せるよう、学校全体で教えてあげてください。家庭でも見直すきっかけになると思います。
- ・ 交通当番で、あいさつしない子が多いように思います。学校で指導をお願いします。

児童・保護者の二者とも、全体的に評価が下がっている。学校行事の中止、子ども同士の対話、地域との関わり等での制約の中で、いかに工夫し、子どもたちに充実感・成就感・達成感を味わわせるか、ウイズコロナの時代に見合った適切な学校生活の在り方を探っていく必要がある。子どもたちが、明るく・心豊かに・たくましく、充実した学校生活を送ることができるよう、今回のアンケート結果をもとに教育活動全体を見直し、改善を図っていききたい。